キコニアレター

2021.11.30 発行 No.28



コウノトリ野生復帰事業は新たなステ

~2021年9月17日 記者会見より~

但馬の大空をコウノトリが優美に舞う。

かつての日常風景を蘇らせようと始まったコウノトリ 野生復帰事業。それは、心安らぐ豊かな暮らしを取り戻 し、未来へとつなげていく挑戦でもあります。

2005年の初放鳥以降、野外コウノトリは順調に増加し、今シーズンは全国7府県27巣(雛を救護後解放した2巣を含む)から61個体の幼鳥が元気に飛び立っていきました。8月末現在、263個体のコウノトリが日本の空を舞っています。数年前まで、野外個体数は直線的に増加していましたが、近年は指数関数的な増加に変わってきれます。急激に増加する野外個体群の存続可能性を高めるためには、各地の生息環境の整備と並行して、個体群の遺伝的多様性を高める対策(新たなペアリングの試みや国外との個体交換など)を進めていく必要があります。

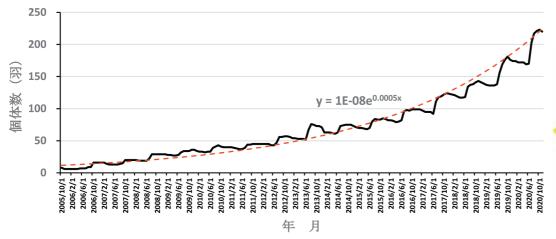
また、野外個体数の増加に伴い成熟個体数(繁殖可能な個体数)も増加しており、2019年に50個体に達した後、今年で50個体以上が3年継続しています。この状況が続くと、レッドリストランクが、絶滅危惧IA類からIB類へ下がる可能性も出てきています。

順調に数を伸ばす一方、コウノトリが防獣ネットにからまる、交通事故に遭う、送電線衝突や水路にはまり出られなくなるなど、事故に遭い救護されるケースも増え



てきています。初放鳥から16年、救護や死体で収容されたコウノトリは167個体(2021年8月末時点)に至り、今年は特に、ペア(夫婦)のいずれかの個体が子育て中に救護されたり死亡した事例が6件ありました。そして、死亡により3ペアが消滅してしまいました。当園では、これらの事故対策の一環として、交通事故防止のための道路標識図案の考案や啓発ステッカーの配布、農業用水路の改修提案、防獣ネットによる事故防止のためのチラシ配布などを行っており、今後も啓発活動に努め、人工物による事故対策に注力していきます。

人とコウノトリが共生していける社会づくり・環境づくりのためには、まだまだ大きなハードルがあります。 真の野生復帰の実現のため、関係機関とも協力しながら 歩んでいきたいと思います。





交通安全ステッカー

野外コウノトリの個体数推移(2005年10月1日~2020年11月1日)

(引用 日本野鳥の会ひょうご会報 2021年4月号)

コウノトリの個体数 (2021.11.2 時点)

飼育				
施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	28	30	0	58
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	18	17	3	38
養父市伊佐拠点	1	1	0	2
朝来市三保拠点	0	0	0	0
<u></u> 計	47	48	3	98

野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	17	16	0	33
兵庫県野外巣立ち	63	83	0	146
野生個体	0	1	0	1
他府県放鳥	12	6	0	18
他府県野外巣立ち等	23	39	0	62
<u></u>	115	145	Λ	260

兵庫県立コウ/トリの郷公園



『約束のケージ』の 復活に想う

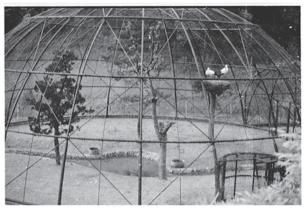
兵庫県立コウノトリの郷公園

YOSHIZAWA Takuyoshi 吉沢 拓祥

「いつか必ず野に帰す」

1965年、個体数の減少に歯止めがかからない日本の野生コウノトリを守るため、最後の手段として、コウノトリを捕獲し、人工飼育に取り組むことにしました。そのために最初に建設された第1フライングケージは、捕獲に携わった人達がコウノトリと冒頭の約束を結んだ場所として、『約束のケージ』と呼ばれています。(『約束のケージ』について、詳しくはキコニアレターNo.10に掲載しています。郷公園HPからご覧いただけます。)

老朽化が進み、2010年に使用を中止していた『約束のケージ』をこのまま解体するのではなく、保護増殖の歴史を後世に伝えるために保存することができないのか、郷公園で保存に向けた検討が2015年から始まりました。文化財の世界では50年以上を経過した「もの」や「こと」について保護の対象ととらえるため、コウノトリの保護増殖事業は50年以上の歴史があり





復活した「約束のケージ」

『約束のケージ』はその対象になる可能性がありました。

文化財として保存するためには倒壊を防ぐ必要があり、2018年から2年をかけて改修工事を行いました。できるだけ原型を残すために鉄骨の形状はそのままにし、基礎部分の腐食した鉄骨はコンクリートで固めました。穴のあいていたフェンスはすべて張替えました。また、当時の鉄骨をそのまま利用するため、積雪に対する耐久性が心配され、原型には無かった大きな支柱を新設しました。これらの工事により『約束のケージ』は解体されることなく、コウノトリが飼育できるケージへと再生され、2019年12月、国の「登録有形文化財」の指定を受けることができました。その後もケージ内や周辺の環境整備などを行い、2021年10月に飼育を再開しました。

そのニュースは、新聞・テレビに大きく取り上げられ、10月10日の特別公開には、たくさんの方に足を運んでいただきました。その中には、飼育開始当時の飼育員の方や、子どもの頃、学校の遠足で第1フライングケージのコウノトリを見に来た方もおられ、様々な想いで熱心に見学いただきました。

飼育するコウノトリペアが、来年の繁殖期に無事にヒナを誕生させてくれればと願います。『約束のケージ』の再活用は単にコウノトリの飼育再開というだけではなく、保護増殖の歴史を後世に伝えるシンボルとして、これからもコウノトリの野生復帰を支え続ける場所になると期待しています。



復活した「約束のケージ」内のコウノトリペア

知ろう

2021年 繁殖トピックス

今シーズン新たに誕生した繁殖地や、全国初の里親飼育などを紹介します。

日本初、里親飼育に挑戦 ~兵庫県朝来市~

朝来市久田和の人工巣塔で昨年から 繁殖しているペア〈オス親(J0160)とメ ス親(J0157)〉のもとには、今年も3月 29日に3羽のヒナが誕生しました。しか

し、4月12日にオス親が 交通事故に遭い、死亡し てしまいました。朝来市 からの依頼を受け、ヒナ 3羽を郷公園で救護し、 日本で初めての里親飼 育に挑戦しました。すく すくと成長したヒナたち は、馴化訓練を行ったの ち、7月20日に地元朝来 市で解放されました。





60年ぶりの巣立ち ~福井県小浜市~

小浜市は、国内野生種絶滅前の1964年に最後のふ化 が確認された地で、巣立ちは1961年以来60年ぶりのこ

今回新たに繁殖したペアのオス親 (J0206) は、2018 年に兵庫県養父市を巣立った個体で、メス親 (J0196) は 2018年に島根県雲南市を巣立った個体です。このメス親 は、2014年に福井県越前市で県内50年ぶりのヒナとし て誕生し、翌15年に放鳥された『げんきくん』(J0118) の娘です。このペアは3月に小浜市に飛来して、人工巣塔 に巣を作り、5月6日にヒナ3羽が誕生しました。ヒナは、 順調に成長し、7月14日に巣立ちました。

小浜市では、地元住民を中心に、休耕田を利用したビ オトープの整備や餌場づくり、魚道の整備などの環境保 全活動を以前から行っており、数年前から度々コウノトリ が飛来するようになっていました。昨秋に人工巣塔を設 置したところ、今年の繁殖に成功しました。



☆…新規繁殖地

… 繁殖地

近親婚対策 ~兵庫県豊岡市~

豊岡市日高町広井では、地域 住民が設置した人工巣塔で初

めて繁殖が確認されました。 今回繁殖したペアは、オス親 (I0210)が2018年に、メス親 (J0087) が2014年にいずれも兵

庫県豊岡市で巣立った個体です。この ペアは姉弟で、近親婚となるため、地元住

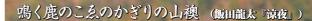
民からの依頼を受け、健全な卵の托卵を行いました。そし て、7月16日に3羽のヒナがふ化し、8月6日に無事に巣立ちま した。

兵庫県南部で初繁殖 ~兵庫県淡路市~

淡路市は、兵庫県南部で初めての繁殖地となりま

今回新たに繁殖したペアのオス親(J0200)は、 2018年に、メス親 (J0167) は2017年にいずれも兵 庫県豊岡市で巣立った個体です。このペアは、2018 年11月に徳島県鳴門市で出会い、毎年冬に なると一緒に鳴門市で越冬していま した。今年2月初旬、淡路市内の

電柱の上で巣作りを開始し、2月 下旬には卵を温め始めました。 4月初めに3羽のふ化が確認さ れましたが、その後2羽が死 亡。残る1羽が6月13日に無事 に巣立ちました。



大学院の裏山で妻恋う鹿が啼く季節になった。十月より入構制限 が解除され、秋の夜長、勉学に励む学生たちの姿がふたたび見られ るようになった。裏山の庭が呼び寄せてくれたのだろうか。とま れ、当たり前のこの姿がふたたび日常として続くことを願わずには いられない。キャシパス駐学生あってのキャンパスなのだから。



イベント報告

砂の世界をのぞく展 8/12 (木)~8/15 (日)

山陰海岸ジオパーク内の砂や石を展示して、地質の 違いをご覧いただきました。感染防止対策のため、「鳴

き砂」などの 体験はできま せんでした が、玄武岩や 微小貝など興 味を持つて観 察していただ きました。



秋の特別ガイドウォーク(非公開エリア) 9/12 印

普段は立ち入ることのできない非公開の飼育ゾーン を、飼育員がコウノトリの保護増殖と野生復帰につい

て説明しなが ら案内しまし た。繁殖ケー ジでは給餌が 行われ、参加 者の方々が興 味津々で観察 されていまし た。



飼育コウノトリへの給餌体験 9/25 (土)

飼育するコウノトリのエサの配合や給餌を体験して いただきました。当初は6・7・9月の3回の予定でし たが、ご好評をいただき、予約が早々に埋まってしまっ

たため、追加で8 月にも実施しまし た。目の前で、餌 を食べている姿を みて楽しんでいた だくことができま した。



義足のコウノトリ(J0325)について

神戸医療福祉専門学校三田校のご協力により義足を 製作し、リハビリに取り組んでいましたが、残念なが ら10月31日に死亡してしまいました。

最近は健常な右脚の裏の傷が大きくなってしまった

ため、義足を用いての リハビリを中断し、失っ た左脚に短いギプスを 付けて過ごしていまし た。死因は呼吸器系の 感染症でした。



兵庫県立大学大学院 令和4年度学生募集 地域資源マネジメント研究科

地域資源マネジメント研究科は、コウノトリの研究などの生態学(エコ)、 地球科学(ジオ)、人文社会科学(ソシオ)という3つの分野を学べ る大学院です。社会人のための長期履修制度もあります。

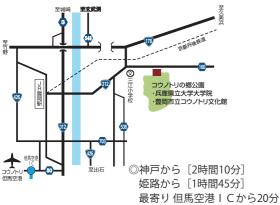
試験日…2022年3月6日(日)

問い合わせ/兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス TEL.0796-34-6079 (学務課)

詳細はホームページをご覧ください。

http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/

ACCESS!



◎JR山陰本線「豊岡駅」から4.5km 全但バス(コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き)

◎コウノトリ但馬空港から12km



セグロセキレイの成鳥と幼鳥



自然解説員のコラム

コウノトリの郷公園で見られる野 鳥の紹介をします。今回は、セグロ セキレイです。尾羽をピョコピョコと 上下に動かしながら歩くのが特徴で



す。体長は約 20cm。園内では川辺でエサを探して いたり、フェンスの上でさえずったりしているところを よく見かけます。今年は春から初夏にかけて、セグ ロセキレイの親子が一緒に行動していました。親か らエサの虫をもらったり、親の後をついて歩き回った りしていました。幼鳥は、色が薄く灰色をしています。

これからはカモ類が渡ってくる時期です。園内の 池でも、ヨシガモ、ホシハジロ、ヒドリガモの姿が

見られるようになりました。遠くから見ると、どれも同じように見えますが、様々な種類の カモが集まっています。皆さんも今年は双眼鏡や図鑑を持って、観察に出かけてみませ んか。

(自然解説員 箸中彩夏)



Hyogo Park of the Oriental White Stork 兵庫県豊岡市祥雲寺 128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間:9:00~17:00 休 園 日:毎週月曜日 (休日に当たるときはその翌日) 12月28日~1月4日

e-mail:kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp ホームページ: http://www.stork.u-hyogo.ac.jp facebookページ: https://www.facebook.com/satokouen/



